

## 学術研究における創造的な問題解決に基本的な方法論があるでしょうか？

最先端の学術研究、創造的な学術研究において、  
その一般的なかつ汎用的な研究方法、「創造的な研究を行う方法」があるでしょうか？  
研究体験を一般的な言葉で説明いただけませんか？ 院生や若い研究者をどう指導されていますか？

ご意見をいただけますと幸いです。

2016年 8月 27日 中川 徹 (大阪学院大学名誉教授)

Email: nakagawa@ogu.ac.jp

『TRIZ ホームページ』 <http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/>

### どんな目的のための方法が必要なのでしょうか？ 視野のレベルで違うのでしょうか？

- (a) 世界の諸研究分野、研究テーマの大きな将来の方向を考える。
- (b) 一つの研究分野で、どのような研究テーマを選択すべきかを考える。
- (c) ある研究テーマで、何を本当に解明すべきか、解決すべきかを考える。
- (d) ある研究テーマで、解明・解決を困難にしているのが何かを考え、それを打開することを考える。
- (e) ある研究テーマの個別の課題において、研究や実験の方法、実験装置の設計などのやり方を考える。
- (f) さらに細部の問題・課題において、それを個別に解決する。

### 「ひらめき」を中心とした、従来の方法の考え方

- (1) 基本的な知識を持っていて、学習・研究しており、
- (2) 強い問題意識を持って、それ以前に長期間考えていた。ああでもない、こうでもない、と、考え、試していた。
- (3) リラックスした心理状態のときに、ちょっとしたできごとや夢がきっかけになって、「ひらめいた」。
- (4) 自分の問題に当てはめて、明確な解決策にした。

### 「6箱方式」をパラダイムとする新しい方法論

技術分野を中心に確立されてきた方法論です。  
技術の分野を問わず、ビジネスや社会などの分野にも、広い目的で使えます。

学術研究の方法論としても使えると考えています。

上記の (d) (e) (f) に適した表現ですが、  
(a) (b) (c) にも調整して使えるものと考えています。

